

## 第2回北陸圏広域地方計画有識者懇談会

平成27年8月7日（金） 13:30～16:00

於 金沢市文化ホール 3階大会議室

### 1. 開会

挨拶：北陸地方整備局 藤山局長

### 2. 議事（進行：山崎座長）

#### （1）新たな「北陸圏広域地方計画」に係る説明（事務局）

- ① 新たな「北陸圏広域地方計画」策定スケジュールについて
- ② 「北陸圏・中部圏の国土形成を考える会」の開催報告について
- ③ 中間整理（案）について
- ④ 広域連携プロジェクト（素案）について

#### （2）意見交換

#### （委員）

- ・ 方向性が見えてきた印象がある。全国レベルの水準の居住環境（教育・生活）があることをもっと強調してもよいのではないか。
- ・ 産業誘致については、研究所の誘致がよく言われるが、研修施設の誘致も重要。交流人口が増える。コマツやYKK等の事例もあるので、もう少し深掘りしてもよいのではないか。
- ・ ものづくりがシーズ中心の発想になっている。しかし、ニーズベースで産業政策を考えることが重要。美容、健康、若返り、安心・安全、ペット、癒し、冠婚葬祭等、個人がお金を使うポイントをターゲットにした商品開発等、ニーズベースのほうが民間も乗りやすいのではないか。
- ・ 復興計画の合わせ技を盛り込んでおくべきではないか。たとえば、普段はキャンプ場だが、発災時には災害復旧拠点になる等。今回の計画では、他地域の災害時の応援に行くことは記載されているが、北陸圏の被災時にどのような支援を求めたいのかが考えられていない。

#### （委員）

- ・ 小松に研修施設を持っている。たまたま土地があつて小松空港が近かつたというのが立地の理由。年間三万人程度来ているが、それだけの人数を集めるためには、充実した二次交通が必要である。
- ・ 本社機能を東京から小松に移転したが、現実には単身赴任が多い。一般的に北陸は住

みやすい地域であり、実際住んでみるとそのとおりだが、周りの人間はそうは思っていないのかもしれない。選択肢の少なさが一つの阻害要因ではないか。たとえば、大学が東京に比べれば少ない。北陸三県の中で、個性のある選択肢づくりをしてほしい。

- ・ ものづくり産業の人材育成を考えたとき、最先端技術の教育・研究も必要だと思うが、いまある技術を継承し、伸ばしていくことも重要であり、そういう人材育成も考えてほしい。
- ・ CSR の一環で農林業を支援しているが、より積極的に農業・林業への製造業の協力ができればと考えている。便利になれば過疎化しないという考え方もあるが、実際には産業の生産性が低いことが過疎化の端的な理由だろう。農林業に製造業の手法を活用する等の生産性を上げる取組を行政中心に進めること必要だ。農山漁村の活性化も進むのではないかな。

#### (座長)

- ・ 農林業のリソースはあるので、いかに生産性を上げるかが重要。もう少し先を見越した目標を記載したり、将来性のある農業支援が必要ではないか。

#### (委員)

- ・ 南海トラフ大地震などで太平洋側が被災したときに、北陸はバックアップエリアになるだろう。ただし、今、富山県には 108 万人住んでいて、108 万人だから水は足りているが、あと 20 万人、30 万人と受け入れたとき、水や米は足りるのか、試算が必要ではないか。
- ・ 富山県内の大学で勉強した若者が、県外に就職してしまう。せっかく教えても、富山県内で生かしてもらえていない。就職支援に問題がある部分もあるが、生涯賃金が大きく違うなど、北陸の中での自分の未来を明るくイメージできないのではないかなと思う。能力のある若者にとっての魅力は、働きがいもあるが、やはり賃金、安定収入の保障である。
- ・ たとえば砺波の散居村は全くコンパクトではないが、集住は地元の反発が強い。県民性や地域性を考えたまちづくりが必要だ。こうした地域の高齢化を支えるには公共交通が重要だが、富山市以外は決定的にインフラが弱い。老後が明るく見えないところでは、長く住もうとは思われない。
- ・ 産業の強靱化に向けて、エネルギーの供給網、資源・リサイクルのロジスティックスを考えるべきだ。
- ・ 文理融合のものの見方が、地方創生に必要なではないか。

#### (委員)

- ・ 北陸圏の経済力と暮らしの場としての価値は、日本で突出している。両方をあわせ持

っているという特長は、もっと強調して表現してもよいのではないか。

- ・ 農家が自分の小さな畑で野菜を作りながら年をとっていくのは、幸せなことである。北陸では、高齢者の息子・娘が1時間圏内に住んでいるケースが多く、先ほど指摘された高齢者の散居への懸念は、あまり心配する必要がないと思われる。
- ・ 農山漁村の経済的な効率性以外の価値が注目されている。修学旅行生を受け入れるような取組が九州や四国で進んでいるが、北陸ではそういう取組が遅れているように思われる。能登や中山間地で、力を入れていくべきである。
- ・ さまざまな産業があり、農村があったり、職人が手仕事をやっている工場もあったりすることは、子どもたちに多様な生き方に触れさせることができるということでもある。その点も強調されるとよいのではないか。
- ・ 資料3に「地域コミュニティの高さ」とあるが、地域コミュニティに高い低いはない。妥当な言葉を選ぶべき。

#### (委員)

- ・ 将来像について、「どこよりも」という表現がされているが、何かと比較するのではなく、北陸の住民が自信とプライドを持って輝くということを示す表現がよいのではないか。
- ・ 新しい将来像に向けた戦略について、グローバル化への対応として、ものづくり、観光、販路の拡大は重要である。既存の項目で触れるか、新たに項目を立てるかすべきではないか。
- ・ 3世代同居率や共働き率の高さが記載されているが、世帯に子どもが複数いる三世代同居が北陸では理想的だろう。世帯あたりの子どもの人数が一人の世帯と複数の世帯はどちらが多いのか、またそれらの世帯収入には差があるのか等、データを用いて、やはり北陸は子育てしやすい、住みやすいという裏付けができればよいのではないか。
- ・ 住みやすさの評価が比較的低い「労働環境・雇用機会」の水準を高める政策が必要である。また、高齢者の増加を考えれば、「福祉・医療」に関してもトップを目指すべき。
- ・ 本社機能の移転の促進や太平洋側との連携強化を掲げているが、販路の問題がある。名古屋・大阪と結ぶインフラの整備推進や環日本海諸国とのアクセス・連携もあわせて記載するべきではないか。

#### (委員)

- ・ 今回の北陸広域地方計画は、わくわくする感じがする。人を引っ張るにはカリスマ性が必要。
- ・ 「コンパクト+ネットワーク」を取り上げているが、全国計画に比べ具体性に欠ける。圏域の中でのモデルを示すなど具体化を。
- ・ 対流には、さまざまなレベルがある。コミュニティレベル、圏域内、隣県、全国、世

界と、輪が広がっていくイメージが伝わるとよい。

- ・ 「ローカルに輝く」は十分伝わるが、「グローバルに羽ばたく」に関しては、例えば九州等国内の拠点と連携しながら外国との結びつきを示すなど、表現の工夫があるとよいのではないか。
- ・ 国土形成計画の全体を網羅しているように見えるが、インパクトが弱くなっている項目がある。環境、インフラ基盤のメンテナンス、ICT 技術の活用が弱いのでは。
- ・ 地図がバラバラで、北陸が全体的にどうなっているのかがわかりづらい。総括図が必要ではないか。表現系を見直しては。
- ・ 北陸圏域で災害対応を連携して行ってきたという印象がない。圏域防災計画と一緒に作るくらいでないと、連携していけないのではないか。
- ・ 能登半島はどう捉えられているのか、不明確である。記載すべき。

#### (座長)

- ・ 能登半島の過疎地域にどう対処していくのか、せめて課題整理だけでもしてほしい。

#### (委員)

- ・ 北陸は自然に恵まれていて、暮らしやすい地域。また、福井・石川・富山と 40 万程度の中核都市が連なる横長の地域。だが、連携する都市計画の話が出てこない。物理的な距離を縮めるために新幹線や高速道路はあるが、接続型都市圏として成り立つ都市計画的な取組がほしい。
- ・ 三次交通について、ほとんど触れられていない。三次交通で行くようなところに、北陸の良い所がある。三次交通まできちんと整備するところを強調してほしい。
- ・ 前回地方計画では克雪が大きなテーマだったが、今回はあまり触れられていない。きちんと入れてほしい。北陸新幹線開業後、まだ雪の季節を迎えていない。北陸で冬に観光客が減るのは、車の運転に抵抗がある人が多いからではないかと思うが、この観光客減を克服することは重要な課題である。

#### (座長)

- ・ アジア人観光客をターゲットに雪を観光資源として活用するなど利雪を考えてはどうか。雪は永遠のテーマではあるが、プラス思考で考えることも大事。

#### (委員)

- ・ 世界の中での北陸の役割を示す計画としてもよいのではないか。富山市では、コンパクトシティの取組が OECD 報告書に掲載されたことで、各所から声がかかるようになった。最初は力不足でも、背伸びをすると視野は広がるものだ。
- ・ 工業製品やインフラ単体で見ると、中国等も同じレベルに来ていて価格も安い。市も

加わって、技術を都市のソリューションとして売っていかないと競争できない。たとえば、富山市の LRT の仕組み（車両とメンテノウハウに加え、街中に電車があるメリットの訴求）や、仙台市のごみ処理システム（ごみ処理とごみ分別 PR）など。

- ・ 東アジアでは、これからメガシティが増え、ますます都市問題に悩むようになる。そうした都市に対し、北陸と都市と企業とがお手伝いをする。それは、自分たちを磨くことにもなり、インバウンドになって返ってくる。基礎自治体としてできることがある。
- ・ ものづくりの都市として困っているのは、働く人材がいないということである。富山では薬業が盛んだが、全くの素人が製薬工場のラインに立つことは困難である。こうした労働者をどう育てるか。専門学校を必要とする、業界の方からも訴えられている。製造業を支えながら、都市と一緒に成長していくという視点が盛り込まれると、他の市町村の参考になるのではないか。

#### （座長）

- ・ 人材育成は非常に重要である。高等教育機関への要望も、ぜひ計画に書き込んでいただきたい。
- ・ 富山市の取組自体は、各自治体の目標になる良い事例だと思う。

#### （委員）

- ・ 北陸圏の弱みについて、本文の文章の中でもう少し触れたほうがよいのではないか。課題と問題は、異なる。たとえば、北陸は幸福度が 1 番だと言っているが、住みたいまち 1 番にはなっていない。選択肢が少ないという指摘もあったが、多様性が少ない、閉鎖的ということもあるのではないか。そうした問題を整理しておくことが必要。
- ・ 工業統計をみると、従業員一人当たり付加価値額は、それほど高くない。高付加価値化を目指す上で、現実を押さえて世界のニッチトップ企業を抱える北陸の強みを伸ばし、付加価値力を高めることが重要である。そのためには、中小企業のネットワーク化に触れてもよいのではないか。中小企業単独でさまざまなソリューションを検討するのは難しい。複数企業が連携した動きは活発化しているが、それをさらに促進することが重要。
- ・ エネルギー効率もそれほど高くはない。改善が必要。
- ・ 世界レベルの観光地になるために、何が足りないのか。マーケティングの視点を取り入れた施策が必要。インバウンドといっても、国籍は 100 カ国以上。どういったマーケットをどのように攻めるか、セグメント別の戦略を立てるといった方向性を出してもよいのではないか。
- ・ 観光業が大きな産業として将来性が見込まれる中、人材育成が重要である。観光学を教える教育機関があってもよい。理論的なバックグラウンドを持った人材、マネジメ

ントができる人材を育てるということも重要である。

- ・ 旅行者の視点で、何が足りないのか、追及することが必要。
- ・ 北陸新幹線の大阪延伸についても、地域として声をはっきり上げるべきだと思う。

#### (座長)

- ・ 東海北陸自動車道 4 車線化、北陸新幹線の大阪延伸、能越自動車道（七尾～田鶴浜）開通は真っ先に記載してほしい。

#### (委員)

- ・ 台湾からの観光客は、桜・紅葉・立山の雪の壁に関心が高い。雪は、観光資源に活用できるのでは。
- ・ 日本はものづくりの国である一方、「おもてなし」の国でもある。
- ・ 北陸新幹線の開業効果は、JR の予測の 4 倍近くになっている。首都圏からの人口大移動が始まる。これまで、京都が観光のゴールデンルートといわれてきたが、北陸と長野で「プラチナルート」の形成を考えている。能登への入込については、東海北陸自動車道（能越道）の効果も非常に大きい。
- ・ 観光は、均衡ある日本の発展に寄与できる産業である。しかし、一般的な温泉・食事の観光ではなく、北陸の特性を活かした観光モデル（スタイル）を作らないと、地方の再生に資する産業にならない。日本の原風景、日本の本来の良さが残っているのが今の北陸の売りであり、これを活かしたユニークな観光地づくりが必要。
- ・ 中央はどういうことを地方にやらせてくれるのか。すべて東京ではダメ。東京と地方との役割分担が必要。

#### (座長)

- ・ 観光リソースをこれまでとは異なる視点でどう開発していくか。エコツーリズムなどの記載はあるが、もう少し深掘りが必要。

#### (委員)

- ・ 福井県は交通と物流が遅れている。福井側からの情報発信不足もある。
- ・ 福井県でも、行政がさまざまな取組をしており、子育てと女性活用についてはいちばん進んでいる。しかし、若い人が流出してしまうのは、大学の選択肢が少ないことと、身近な賃金格差が原因だろう。
- ・ 何か行動を起こして変わるような提言を出してほしい。

#### (座長)

- ・ 夢ばかりではなく、具体的に何をするのか、というところを記載してほしい。トピッ

クの重複は、整理してほしい。

- ・ 課題の整理の際に、過去 10 年間の傾向を踏まえて、今後の 10 年間を検討する等、数値等の客観的な根拠を示してほしい。たとえば、エネルギー分野では、3.11 後の再エネ導入率やエネルギー自給率、物流分野では、これまでの物流の増加傾向や今後の見通しを示す等。読み物としては良いが、国の計画としてはまだ薄い。
- ・ 文化的な豊かさについて、記載が不足している。
- ・ 第 1 回有識者懇談会で委員が述べた意見をもう一度噛み砕いて反映してほしい。
- ・ 観光については、温泉・食事以外の新しいタイプのツーリズム開発を書き込んでほしい。
- ・ 子育て支援については、もっと踏み込んでほしい。三世同居は働きやすさだけではなく、孫育ての観点からも重要であり、どのように最期を看取るかということとも関わる。
- ・ 能登半島の活性化について、記載が必要。石川県内で金沢への一極集中が起きている。
- ・ 農業についてはかなり具体策が記載されているが、林業・水産業についても、将来への糸口になることを書き込んでほしい。基本的には企業化の方向だろう。
- ・ 高等教育機関への期待も、もっと書いてよい。大学卒業後に留ませるために大学側がもっと努力せよということでもよい。金沢の魅力を感じて、県外から金沢に進学した若者が残るケースも多い。こうしたこともうまく書き込めるとよい。

### 3. 閉会

挨拶：北陸信越運輸局 大野次長

(以上)